

日本刀ブームの今、
必見です！

歴史に名を残す 名工の作品が、 一堂に集結



大分県立歴史博物館 主幹学芸員 **平川 毅**

日本の美意識 —刀剣と金工—

9月27日(金)から、「日本の美意識—刀剣と金工—」が開催されます。中でも刀剣は欧米にも愛好者が多く、日本では「刀剣女子」と呼ばれる若い世代のファンも増えています。その魅力や見どころについて、展示作品のセレクトから関わっている大分県立歴史博物館主幹学芸員の平川毅さんにお話を伺いました。

—今回の展示は、どついつい観点からセレクトをされたのですか？

日本刀ブームが起こっている今は、文化財でもある日本刀のことに関心を持っていただく非常にいい機会。だからこそ、正しい歴史や文化を知っていただくということを展示のコンセプトにしました。日本刀には、その姿や製作技術に基づいた定義があり、中でも姿は歴史に応じて変化しています。

刀剣は古くからあったのですが、日本刀の歴史は平安時代の後期に始まりました。桃山時代の前半までが「古刀」の時代、それ以降は「新刀」の時代と呼ばれています。古刀の時代(平安時代後期)と桃山時代前半には「五ヶ伝」という、武士たちの垂涎の的となっていたブランドとも呼べる生産地があるんですよ。時代が古い順にあげると、平城京があった大和伝(奈良県)、平安京の山城伝(京都府)、山城伝と同時代で材料の鉄に恵まれていた備前伝(岡山県)、鎌倉幕府が開かれていた相模伝(神奈川県)、最後は美濃伝(岐阜県)。新刀の



平川さんの専門は近世史。大分県立歴史博物館に着任後、日本刀も担当することに。展示業務だけでなく、美しく保つための日常管理や研磨委託なども行う。「実は、美的なところばかりを強調するのも、刀剣担当としては違和感があります。現在は「美術刀剣」という形でしか扱われていませんが、元々は武器だということも、合わせて伝えたいと思っています」

時代(桃山時代後半)と江戸時代)には、幕府のお膝元である江戸と、商人の町で物流の拠点になっていた大坂に刀工が集中するようになっていきました。今回の展示は、そんな日本刀の歴史が辿れるような形でセレクトしています。

—見どころは？

今回は、五ヶ伝それぞれの違いが分かるようにセレクトし、新刀の時代の江戸と大坂の日本刀も展示されます。どれも代表的な名工たちの作品ばかりです。これだけの日本刀が一挙に揃うというのは、県内ではおそらく初めてだと思っています。

もう一つの見どころは、平安時代の終わりから鎌倉時代の初めごろにかけて活躍した、豊後(大分県)の「行平(ゆきひら)」という刀工の作品です。行平は、自ら刀を打っていた後鳥羽上皇の御番鍛冶(お手伝い鍛冶)の一人に選ばれるほど、非常に優れた名工でした。そんな郷土の名工の作品を、五ヶ伝の名刀と並べて展示しています。国の重要文化財に指定されているものも展示されますよ。

—今回初めて日本刀を見るという人も多々と思いますが、見方のアドバイスはありますか？

古刀と新刀を時代順に並べる予定なので、時代に応じて変化した姿を見られると思います。少し無骨な大和伝の日本刀に比べると、山城伝の日本刀は非常に刀身が細くて反りも強く、どこか優雅。平安時代の貴族文化の中で作られるので、上品で優美

な太刀が出てくるんだと思います。鎌倉時代以降の相模伝や美濃伝など本格的な武士の時代のものは、ある程度身幅が広くなって武器としての実用性も出てくる。それぞれの違いを見ていただけるのではないかと思います。

日本刀というと、敷居の高い文化財だと思われるかもしれませんが、中には「怖い」と感じる人もいるかもしれません。しかし作品として見ていると、「この刃文は面白いな」とか「この反り方が美しいな」とか、「綺麗だな」とか、自分なりのお気に入りの一振りを見つけて、じっくり観察して味わっていただければ、それだけでも十分だと思います。

日本の美意識—刀剣と金工—

9/27(金)~10/22(火)

▶大分県立美術館 3階 コレクション展示室

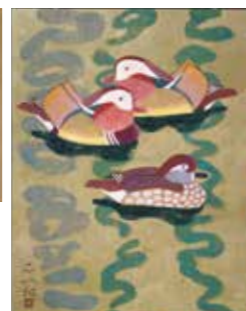
【時間】9:00~19:00(入場は閉館の30分前まで) ※初日の一般入場は10:00から、金・土曜は20:00まで開館 【料金】一般800円(600円) / 大学・高校生 500円(300円) ※()内は前売りおよび20名以上の団体料金、中学生以下無料 【問】大分県立美術館 Tel:097-533-4500

2019 コレクション展 III 「OPAM アニマル★パラダイス」

この夏、コレクション展示室はたくさんの「動物たち」でにぎわいます！OPAMの絵や彫刻の中には、動物のカタチをしたものが沢山あります。みなさんの身近にいる鳥、犬、猫。人々の暮らしに寄り添ってきた牛や馬。日本では珍しい孔雀や虎。さらには空想上の生き物まで、次から次へと、愛らしい動物たちが登場します！皆さんそれぞれの楽しみ方で、展示室を探索するような気持ちで巡ってみてください。動物たちの楽園へようこそ！



高山辰雄「二匹の仔犬」1955年



福田平八郎「春の水」1967年

開催期間
8/9(金)~9/23(月・祝)
前期...8/9(金)~9/3(火)
後期...9/5(木)~9/23(月・祝)
※9/4(水)は一部展示替えのため休展
▶大分県立美術館 3階
コレクション展示室
ギャラリー・トーク
8/18(日)、9/1(日)・15(日)
各日14:00~15:00
※予約不要・要観覧券

【時間】10:00~19:00 ※金・土曜は20:00まで(入場は閉館の30分前まで)
【料金】一般300(250)円 / 大学生・高校生200(150)円 ※()内は20名以上の団体料金、中学生以下は無料 ※大分県芸術文化友の会 びびKOTOBUKI無料、TAKASAGO無料、UME団体料金 ※高校生は土曜に観覧する場合は無料 ※県内の小学・中学・高校生(これらに準ずる者を含む)とその引率者が教育課程に基づく教育活動として観覧する場合は無料 ※障がい者手帳等をご提示の方とその付添者(1名)は無料 ※学生の方は入場の際、学生証をご提示ください
【問】大分県立美術館 Tel:097-533-4500

ムーミン展 THE ART AND THE STORY

Present

愛らしい姿で世界中のファンを魅了するムーミン。フィンランドの芸術家、トーベ・ヤンソンが生み出した「ムーミン」シリーズは、小説、絵本、アニメ、商品などさまざまなかたちで親しまれています。その多彩なアートと物語の魅力をおよ500点もの展示品で紹介しています。会期中のおすすめイベントは、8月9日の「ムーミンの日」を記念した「2019 ムーミンの日」オリジナルトートバッグプレゼントです。8月5日(月)から9日(金)までの5日間、展示室内のショップにて税込3,000円以上お買い上げのお客様を対象に、1日先着100名様限定でムーミンオリジナルトートバッグを差し上げます。「ムーミン展」は9月1日(日)までの開催です。あの人気声優の櫻井孝宏さんによる音声ガイドもお楽しみください。



ムーミン展 THE ART AND THE STORY

2019年6/29(土)~9/1(日) ▶大分県立美術館 1階 展示室A

【時間】10:00~19:00 ※金・土曜は20:00まで(入場は閉館の30分前まで)
【料金】一般1,400(1,200)円、大学・高校生1,000(800)円、小中学生700(500)円 ※()内は20名以上の団体料金 ※大分県芸術文化友の会 びびKOTOBUKI無料(同伴者1名半額)、TAKASAGO無料、UME団体料金 ※障がい者手帳等をご提示の方とその付添者(1名)は無料 ※学生の方は入場の際、学生証をご提示ください 【問】大分県立美術館 Tel:097-533-4500



© Moomin Characters™